

ラーハウザー記念礼拝堂の修復が完了

9 月 20 日より礼拝再開

3 月 11 日に発生した東日本大震災により、土樋キャンパスのラーハウザー記念礼拝堂は、天井部分の崩落と、木下地の一部腐敗も見られ強度に問題があるため、全面改修されていました。震災から半年が経過し、この 9 月、修復工事のため閉鎖されていたラーハウザー記念礼拝堂の復旧工事が完了しました。

夏休み明けの 9 月 20 日、大学の授業再開とともに、修復完了の礼拝堂で礼拝が再開されました。再開初日の礼拝には、70 名ほどが集い、久しぶりに鳴り響いた佐々木、しのぶさんによる荘厳なパイプオルガンの音色が礼拝堂に響き渡りました。

星宮望学長の司会によって始まった礼拝は、冒頭「震災以降、使用することができなかった礼拝堂の修復が完了し、本日よりこうして礼拝が執り行えることを大変うれしく思います」とあいさつ。讃美歌 285 番に次いで、星宮学長は「創世記」の第一章第一節を朗読し、神の創造とエネルギー資源についての考えを述べました。震災後のエネルギー問題についてふれたあと、「人間の頭脳こそが真の資源であり、若者の知恵を育む学院教職員と学生諸君が素晴らしい資源であると確信している」と結び、礼拝を終えました。



▲修復が完了し、再開された礼拝（9 月 20 日）



▲震災直後天井部分が崩落した礼拝堂内部の様子（3月）



▲礼拝堂内部は足場を組み、天井部の全面修復が行われた（4月）



▲雨水対策で礼拝堂全体を覆いながらの修復が進められる（6月）